

KTK

京都ライトハウス通信 No. 107

'06年10月21日



編集人 鈴木紘一 / 社会福祉法人 京都ライトハウス / 〒603-8302 京都市北区紫野花ノ坊町 11
代表番号 TEL 075-462-4400 FAX 075-462-4402 / 鳥居寮 TEL 075-463-6455 / 船岡寮 TEL 075-463-4649 FAX 075-467-2788
URL: <http://www.kyoto-lighthouse.or.jp> / E-mail: info@kyoto-lighthouse.or.jp
郵便局振替番号 (京都ライトハウス)01040-0-4470 (後援会)01090-3-9080 (運営資金寄付)00960-5-153295 / 1979年(昭和54年)8月15日創刊

第24回鳥居賞 福島智氏、 第10回鳥居伊都賞 岩田美津子氏 受賞される

9月11日、故鳥居篤治郎初代館長のご命日にちなみ、伝達式が行われました。故鳥居篤治郎先生遺徳顕彰会代表 狩野勝也から福島智氏及び岩田美津子氏へ、それぞれ賞状と記念品・副賞が贈られました。

福島智氏は、全盲ろうという二重の障害を負いながらわが国で初めての全盲ろうの大学生となりました。「福島智君とともに歩む会」が母体となって全国盲ろう者協会が設立されたことにより、本格的な盲ろう者向けの福祉施策の前進に大きく貢献しました。全国盲ろう者協会の理事として、協会の牽引者としての活躍をされるほか、東京大学先端科学技術研究センター助教として、また、世界盲ろう者連盟アジア地域代表委員として、盲ろう者の可能性を世に知らしめ、わが国の盲ろう者の福祉の進展、社会的地位の向上に大きく貢献されていることが、鳥居賞にふさわしい業績とされたところです。

岩田美津子氏は、全盲の母であり、わが子と一緒に絵本を楽しみたいとの思いから、市販の絵本に点字シールを貼って点訳絵本を作成され、自らの子育てに活用されました。その後、その経験を生かして、視覚障害者のための「てんやく絵本 ふれあい文庫」を創設、20年以上点訳絵本作りとその貸し出しのボランティア活動を続けてこられました。現在年間6千冊を超える点訳絵本の無料貸出しの実績があり、視覚障害者福祉の向上発展に多大の功績を築いて

こられたことが、鳥居伊都賞にふさわしい業績とされたところです。

以下、福島智氏と岩田美津子氏が受賞者挨拶された内容の一部を掲載いたします。



福島智氏 指と指とを重ねて指点字での通訳

福島智さんの挨拶

このたびは鳥居賞の受賞者にお選びくださり、大変な栄誉に存じますとともに、心より感謝申し上げます。

鳥居篤治郎先生のお名前はかねてより存じ上げておりました。また、先生のおことは、たとえば、次のような指摘は知人から伝え聴いておりました。それは、「外部から得られる視覚的情報のない盲人には、具体から一般を抽象する帰納的思考よりも、一般から具体へとすすむ演繹的思考が適している」という趣旨の内容で、この一分析だけでも、先生の知性の高さと、視覚障害者の認知特性への深い洞察を感じとり、

感銘を受けておりました。

しかし、恥ずかしながら、先生について、その著作や業績を私はほとんど存じ上げておりませんでしたので、このたび、先生のお名前を冠にした賞を頂戴するにあたりまして、せめて先生のお人柄の片鱗なりとも伺い知ることができればと思い、時間の許す範囲で先生の著作や先生を偲ぶ資料などを拝見いたしました。

まだ私は、先生の全体像の極、極一部しか触れることができておりませんが、それでも、生誕から 112 年、ご逝去から 36 年を経た現在に生きるわれわれ、たとえば私にとって、きわめて鮮やかな印象と強烈な思想的インパクトを伴って先生の存在とお言葉が伝わってまいりました。先生は一言で申し上げれば、愛を自然体で実践なさった方なのだと感じました。

先生は常に世界を視野に入れ、とりわけアジアの貧しい地域の盲人について、心を砕いておられました。また、ハンセン病で失明した方々との交流や彼らへの深い思いがあり、そして、盲ろう者の教育や福祉の問題に、すでに今から 50 年も前にたびたび言及なさっておられたことを知り、大変感激いたしました。

ここで^{せんえつ}僭越ではございますが、以下、いくつか私が心に残りました先生のお言葉や歌、そこから得た私の感慨などを若干ご紹介させていただきます。まず、『無限を見 可能性を信じた人間鳥居の生涯』の中で、先生の歌が多数掲載されております。たとえば、先生が 18 歳の時、1913 年 1 月に点字で自筆なさった「破片」という歌集が紹介されています。

その「序」に、18 歳の先生はこう記しておられます。

「過去の我から潔く別れ行くためにこの一編を編した。漠として徹せざる生活の『破片』、それは刻々に時が築き行く生きた私の墓標であり、いたましくきれぎれになった我が生命のかけらである。

さらば若き日の痛ましき破片よ。永久におま

えとは会うまい、絶えず新しき我であるために。(後略)」

18 歳といえば、私が全盲から全盲ろうになり、絶望のうちに思索にふけていた年齢と同じです。障害の内容やおかれた環境、時代背景などまるで異なりますが、こうした若き日の先生の言葉は、私の心の琴線に触れ、共鳴します。その歌からは青春の悲哀と、失明の悲哀、人生への悲哀がとけ出して来るようです。

私が心うたれましたのは、こうした芸術的表現者としての先生の一面だけでなく、その強固な思想的メッセージでした。『鳥居篤治郎の英知』の中で、先生は次のように述べておられます。

「盲人に、およそ二つの型がある、と私は思う。

一つは、「人間」とは、「めあき」であると考え、彼らと同じように振る舞い、同じように考え、同じように生活することを目標として勉強し、努力する型の盲人である。今一つの型は、自分が盲目であるという自覚に立って、それを基盤として、人間になろうと考える盲人である。」

この先生の指摘は、個人としての盲人についての分析から、盲教育や盲人団体のあり方、さらに広く福祉運動一般への考察と広がっていきます。

このご指摘にはきわめて重要な論点が含まれていると私は思いました。すなわち、これを私なりに解釈しますと次のようになります。

「障害、たとえば視覚障害を得たという自らの体験や自らの属性を軽視したり、否定してはならない。見えないならば、その見えないという自らの体験に立脚して人生を考える。それはいたずらに健常者や既存の社会システムへの過剰適応をめざすのではなく、見えないという属性をまとった当事者として、その独自のニーズを社会にアピールすることであり、同時に、個人レベルで言えば、自らの体験をとおして、本当の豊かさとはなにかを考える視点を持つことである」

鳥居先生はこのようなおっしゃりたかったの



ではないかと思います。

実際、『すてびやく』の中で、先生がすでに27、8歳のころにご自身が後に「盲目の宣言」とも称される格調高い一文を書いておられたことが紹介されています。

「・・・窓を開いて大空をあおいでも、私どもの目には清らかな月影はさし入りません。しかし、おのずから心の世界に帰る時、そこには常住の月が照り輝き、力ある望みの星が行く手を照らしてしてくれます。（中略）滅ぶべき物質の宝庫は私どもの前に半ば閉ざされておりま。けれど、永遠不滅の宝は、目のあるものと等しく私どもにも与えられております。（中略）この世に生を受けた以上、そこに生存の使命があり、価値があり、意義があることを確信し、肉体の闇を心の光に変えて勇氣と忍耐と不拔の意思をもって、雄々しく勇ましく感謝の歌を歌いつつ、この一生を終わりたいと存じます。」

今から80数年前の大正時代に、すでにこうした障害観を、しかも20代の鳥居青年が表明なさっていたことは驚嘆すべきことです。当時と比較して日本社会は圧倒的に物が豊かになり、科学も技術も進歩しました。しかし、この社会に生きる私たちの心はどれほど豊かになったのでしょうか。

人生にとって真に価値あるものとはなにか。人にとっての本当の豊かさとはなにか。障害という体験は、そうしたことを考える上で重要なチャンスを提供してくれているのではないか。先生はそうおっしゃりたかったのではないのでしょうか。

ややもすれば表面的な豊かさを追い求め、稀薄な人間関係の中で、他者との交わりもますます表面的になりつつある現在、明治から昭和にかけて生きた鳥居篤治郎という一盲人が残したメッセージは障害の有無を越えて、普遍的なテーマを私たちに問いかけているのではないかと思います。

鳥居先生、私は先生が気遣ってくださった盲

ろう者の一人です。私も先生にならい、「盲ろうの宣言」を自身に向かってしたいと思います。そして、日本の盲ろう者、アジアの盲ろう者が、それぞれ自らの人生に誇りと使命を見いだせるよう、残された人生で微力を尽くしたいと存じます。

このたびは先生の遺徳により、こうした思いを新たにさせていただく機会が与えられました。本日は誠にありがとうございました。



岩田美津子氏

岩田美津子さんの挨拶

このたび鳥居伊都賞という栄えある賞を受賞できましたことを大変嬉しく思っています。点訳絵本の製作と貸し出しという、実に地味な活動に対してこのような評価をしてくださいました関係者の皆様方に心より感謝申し上げます。

この点訳絵本につきましてはすでにご存じの方も多いかと思いますが、簡単にご説明させていただきますと、市販の絵本の文章のところにそれを点訳した透明なシートを貼り、絵の部分も同じシートで形を切り抜いて絵の上に重ねて貼ったり、絵の説明文を書き添えたりして、見える人と見えない人が一緒に楽しめるように工夫したものでございます。

今から30年前、見えない私がわが子と一緒に楽しめる絵本はほとんどありませんでした。見えないから読んでやれないとあきらめてしまえばそれまでですが、私は親としてあきらめることができませんでした。その後、友人の知恵を

借りながら考え出したのがこの点訳絵本でした。

そして同じ立場の方々に、親子で絵本を読むことの楽しさや、大切さを伝えたいと願い、小さな家庭文庫を始めたのは 22 年前のことでした。その文庫がその後、このような広がりをもせようとは思っていませんでした。

今は「てんやく絵本 ふれあい文庫」というボランティア団体として活動を続けていますが、ここに至るまでにはどれだけ多くの皆様に支え、育てていただいたかわかりません。

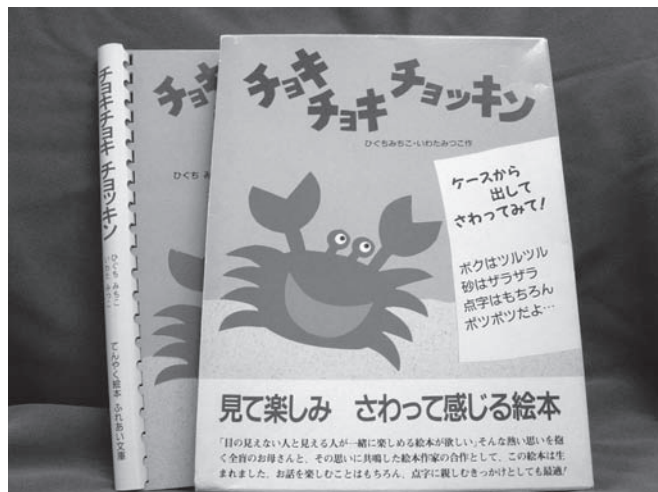
厚い壁にぶつかるたびに、そのつといろいろな方がその壁を取り除いてくれましたし、私が夢を語れば周囲の人たちがそれをわがことのよう

に受け止め、力を注いで、その夢を実現させてくれました。

この 22 年を振り返って、もっとも大きな出来事といえば 1987 年、点訳絵本の郵送料の無料化が実現したことでしょう。それにより、利用者は急増し、現在では年間 6 千冊を超える貸出しを行っています。

それともう一つ大きな出来事をあげるとすれば、1996 年、作家や出版社、印刷会社の協力を得て、日本で初のフルカラーの点字付絵本『チョコキ チョキ チョッキン』の出版が実現したことといえましょう。

ふれあい文庫では 8 千冊の手作りによる点訳



日本初のフルカラー点字付絵本

人にとって決して十分な環境とは言えません。見える人が地元の図書館や書店を利用して絵本を楽しんでいるように、見えない人のためにもそのような環境を整えていかなければならないと考えています。

そんな中で、この『チョコキ チョキ チョッキン』の出版が絵本にかかわる人々に、見えない人も絵本を楽しみたいと思っていることを伝えるきっかけになったと言ってもよいのではないのでしょうか。

その後、いくつかの会社から点字付絵本が出版され、図書館や書店でも見かけるようになりました。しかし、その数はまだわずかです。見えない人たちが自由に絵本を楽しめるようにするためには、もっともっとその出版物を増やしていかなければなりません。

それを実現させるために 4 年前、関係者の皆さんとともにその研究会を発足させ、少しずつ動き始めています。その一つの成果として年内には 2 冊の点字付絵本の出版が決まっています。

これから先、何がどれだけできるかはわかりませんが、この受賞を励みとして、社会の信頼と期待にこたえるべく努力を重ねてまいりたいと考えています。本日はどうもありがとうございました。

最後になりましたが、鳥居賞・鳥居伊都賞伝達式にご多忙の中を、ご来賓をはじめご臨席いただきました方々に心から厚く御礼申し上げます。



伝達式を終え、笑顔でのツーショット



ライトハウス探訪 こんなことしています！ 第32回

船岡老人クラブハウス

ハーモニカクラブ

指導者 田中みゆき

クラブがスタートしてから2年半になります。ハーモニカって手軽で健康的、そしてどこを吹いても音が出るという素晴らしい楽器です。最初は「ハーモニカを持ったことのない人」「ドレミが全く分からない人」また逆に「知っている歌は何でも吹ける人」など様々でしたが、今では、1曲ずつみんなで合奏が出来るようになり、レパートリーも増えてきました。新しいメンバーも次々に増えて、初心者向きのコースも…と考えています。



ピアノ伴奏に合わせてリズムよく

また、これからのことについても、音楽の基礎（楽典）をわかりやすく学習し、文字通り音を楽しむハーモニカ合奏にしていきたいと思っています。



ひとつひとつ音を確認しながら

◎練習日

毎月第3火曜日 午後1時半～3時半
ライトハウス 地下音楽室にて行っています。

点訳サービス・点字図書出版
有限会社 オフィス **リエゾン**

視覚障害者手帳をお持ちの人は点字図書が原本価格で購入できます。

出版総目録（墨字・点字）を無料でお送りします。
外国語・楽譜・立体コピー作図なども点訳しています。
お気軽にお問い合わせください。

TEL: 0774-56-3907

E-mail: laison@kk.ij4u.or.jp

ホームページ: <http://laison.ne.jp>

〒610-0121 城陽市寺田市ノ久保2-63

消防設備・設計・施工・監理

その他消防用品販売



近畿報知機株式会社

京都市右京区嵯峨野嵯峨ノ段町1の17

電話 (075) 881-2738 番(代)

FAX (075) 881-8188 番



☆らくらく☆

事業名称が変更になりました

10月1日から、障害者自立支援法の施行に伴い、らくらくは「身体障害者デイサービス・らくらく」から「生活介護事業者・らくらく」になりました。居宅支援事業だったデイサービスの事業名称は9月末で終了になり、新体系に移行することが絶対となったためです。

事業内容は、地域などにおいて安定した生活を営むため常時介護等の支援が必要な方への支援となり、より介護色が強くなって、医師や看護職などが必置となっています。看護師は従来でも自主的に配置しており、医師は従来から船岡寮などに携わっていただいていた先生に応援していただけることになりました。利用するためには、障害区分認定3（50歳以上は区分2）以上が必要です。また、同時に定員も20人と拡大していかねばならず、スタッフの質量ともに拡充が必要になってきます。9月上旬には、事業者申請の作業が終わりましたが、運営の細かい点では行政サイドでも不明・未定なところがまだまだあります。利用者の方々に喜んでいただけるサービスを目指して、京都市内の関係事業者間で実態アンケートを採るなど今後の改

善に向け奮闘中です。

☆鳥居寮☆

盲導犬訓練センター見学&体験歩行

去る7月21日、亀岡市にある関西盲導犬協会訓練センターの見学と体験歩行に行ってきました。これは毎年行っている行事で、多くの訓練生の皆さんが楽しみにされています。今年は、入所・通所・訪問合わせて21人が参加されました。

まず、午前中に訓練センターの見学をしました。職員さんの説明を受けながら、盲導犬とユーザーの方が一緒に寝泊りして訓練を受ける『共同訓練』の部屋を見せていただきました。「自分自身で犬の世話をするなんて出来るかな」、「犬の健康管理が難しそう」…。口々に感想を漏らしながら、熱心に見学をされている様子が印象的でした。

午後からは、楽しみにしていた体験歩行です。一人ずつ訓練士の方に付いていただき、真っすぐな道を盲導犬と一緒に歩きます。当日は、3頭の盲導犬が代わる代わる往復15分から20分の道を一緒に歩いてくれました。

参加者のほとんどはこの日が盲導犬初体験で、最初は緊張してぎこちなかったのですが、慣れてくると犬との息もぴったり！「グッド、グッド！」と声を掛けながら、白杖での歩行とは違うスピードと心地良さを感じておられました。

「将来、盲導犬と一緒にいろんな所に行きたい」、「もっと沢山



グッド、グッド！

こんな症状でお困りでないですか？

- ・引越しや増改築、白蟻駆除などをしてから気分が悪くなった
- ・家にいるとなんとなく疲れやすい 等々

3つの建材をバランスよく使った

「健康な家づくり」のシステム五法

自然治癒力を高める健康な生活をご提案致します

竹炭入り 清活畳

天然の空気清浄塗り壁材

幻の漆喰 しっくい

うづくり健康フローリング

音響熟成木材

新築やリフォームでも実感いただけます。

◇ぜひ展示室で空気を体感してみませんか？



☆まずはお気軽にお問い合わせ下さい☆

有限会社 ケアライフシステム
京都市下京区中堂寺南町105
GH五条701 (五条七本松東南角)
TEL: 075-323-0330 FAX: 075-200-1034

<http://www.CLS0333.com>



らくらく

歩いてみたい」、「ほんとうに賢い犬だなあ」…。それぞれ感想を胸に持ちながら、盲導犬の素晴らしいことや、歩くことの楽しさを感じていただくことが出来ました。

☆船岡寮☆

入所者の介護保険利用始まる

船岡寮で働いている職員の所属が色々変わりました。①「盲人養護老人ホーム船岡寮」②「盲人養護老人ホーム船岡寮 特定施設生活介護・予防介護生活介護事業所」（特定施設外部サービス利用型）③「ヘルパーステーションふなおか」の職員が共同で利用者のサービスにあたることになりました。①と②、①と③に所属して兼務で働いている職員もいます。

- ①は措置施設で、今までどおり福祉事務所（町村役場）で申込みをして入所手続を進めます。
- ②は船岡寮の入所者が介護保険を利用するための事業所です。

③はホームヘルパーを派遣する事業所で、船岡寮だけでなく在宅の方も利用できます。

働いている職員も利用者も、戸惑いながら何かがどう違うのか困惑している状態です。

船岡寮利用者の介護保険利用方法は、船岡の特定施設を通す場合と、個別契約で在宅介護支援事業所にケアプランを作成してもらい利用する方法があります。介護保険を利用すると1割負担が出てきます。また、利用額も介護度5の方は特定施設を利用すると在宅の方に比べて利用限度が3分の2程度になっています。



今号の注目記事！！

用具販売コーナーご紹介

こんにちは！京都ライトハウスの用具販売コーナーをご紹介します。

用具販売は2002年7月に京都府視覚障害者協会からライトハウスへと引き継がれ、2004年4月、ライトハウスのリニューアルにともない、新ライトハウス1階の南側に新たにオープンしました。「ふれあい喫茶きらきら」「パソコン相談室」と一緒に、朗らかでにぎやかなオープンスペースとなっています。

用具販売コーナーでは、視覚障害者の皆さんに必要な白杖や点字器、音声時計などはもとより、どなたにでも便利にお使いいただける、「糸通し器」「ひと押し定量のしょうゆさし」なども置いています。また、ライトハウスの創設者、鳥居篤治郎先生の書籍や、視覚障害者の方々のエッセイ類も販売しています。

次回からは、用具のあれこれを少しずつご紹介できたらと思っています。ライトハウスへお立ち寄りの際は、どうぞお気軽に用具販売コーナーをのぞいて見て下さい。



おしらせ

■年末年始の休館について

年末年始の休館は、次の通りとさせていただきます。

12月28日(木)の夜から1月3日(水)の夜までは宿直および日直とも不在ですので、ご了承下さい。

各事業所の年末年始の休業につきましては、別途お知らせいたします。

	昼 (9～17時)	夜 (17時以降)
12/28(木)	開館	休館
12/29(金) }	休館	休館
1/3(水)		
1/4(木)	開館	開館

■あい・らぶ・ふえあ

～来て見て体験！ 見えない世界～

日時：2007年1月18日(木)～21日(日)

10:00～18:00

(21日は17:00まで)

場所：大丸京都店 7階南側 特設会場

内容：絵画コンテスト、様々な体験コー

ナー、インターネットで交流 など

お問い合わせ：下記参照

永年の信用・まごころのご奉仕

葬祭センター

公益社

本社／京都市中京区烏丸通三条下ル ☎075(221)4000
フリーダイヤル ☎0120-00-4200

◆ 葬 儀 式 場 ◆

公益社 北 葬祭センター (堀川紫明) 京都市北区紫明通堀川東入 ☎(075)414-0420
公益社 中央葬祭センター (五條大和路) 京都市東山区五條通大和路 ☎(075)551-5555
公益社 南 葬祭センター (堀川八条) 京都市南区堀川通八条下ル西側 ☎(075)662-0042
公益社 西 葬祭センター (五條西大路) 京都市右京区五條通西大路西入ル南側 ☎(075)322-0042
公益社 宇治葬祭センター (宇治横島) 宇治市横島町(文教大学前) ☎(0774)20-0042
公益社 滋賀葬祭センター (大津) 大津市朝日が丘1丁目 ☎(077)523-0042

■触って・使って・ためしてみよう！ 体験シリーズ Part 5「白杖展示会」の お知らせ

視覚障害者になくてはならない白杖。「安全な歩行をするにはどうすればいいか」、「最新の白杖事情」などを含め、白杖展示会を行います。

日時：2006年11月9日(木)

10:00～15:30

場所：京都ライトハウス 研修室2

お問い合わせ：下記参照

■好評 ゝらいとくん、募金

引き続き行っています！

法人事務所のカウンターに「らいとくん募金箱」が置いてあります。携帯ストラップ ゝらいとくん、は服の色が4種類あって、300円の募金をしていただけると1個差し上げています。

募金の収益は、法人の運営費に充てさせていただきます。是非、皆さまのご協力よろしくをお願いします。



お問い合わせ・ご注文は京都ライトハウスまで
電話、ファクス、Eメールでどうぞ。

TEL 075-462-4400

FAX 075-462-4402

E-mail info@kyoto-lighthouse.or.jp



らいとくん

濱本捷子さんの 本を発売しています！

『かつちゃん拝まんせ』^{かつこ} 濱本捷子／著

発行／京都ライトハウス・大活字

定価 1,600 円＋税 問い合わせ先／前頁に記載

今回の著書は前作「盲目は不自由なれど不幸にあらず」（私の歩行訓練日誌）に、50 歳を過ぎて視覚障害者更生訓練施設に入所することになるまでの半世紀を新たに加筆して出版したものです。



全編を通してリズムカ
ルなタッチで表現され
る彼女の明るさ、強さ
が多くの視覚障害者に
希望を、晴眼者に感動
を与える珠玉の一冊で
す。

（濱本 捷子著『かつちゃん、拝まんせ』から）

緑内障で痛むまぶたをおさえ、あふれる涙を拭うこともせず私は物陰からその花嫁行列を見つめ続けていました。

花嫁は、私よりも年下の若く美しい人でした。そして、その人は同じ村に住む私の幼友達でもありました。若草色の生地に亀甲や鶴などめでたい刺繍が施され、あでやかな花の模様が染め抜かれた豪華なふり袖姿の花嫁は、雪景色の中で簪をきらきらゆらせていました。

その兄は最も身近な兄弟として末の妹の私を可愛がってくれました。いつも少女雑誌を買ってくれるのも、まだクリスマスプレゼントの習慣もなかった頃に、靴の中にいっぱいキャンデーを詰めて贈ってくれたのもその兄でした。

「雪景色」

その日、朝からしんと降り積もる雪の中を祝いの歌に導かれながら、花嫁の行列が我が家へと向かってきました。次兄の結婚式でした。

お れ い

■経糸の会様

9月4日、ヒューマンふれあいコンサートを6月25日に開催され、その収益より多額のご寄付を賜りました。ライトハウスの運営資金として活用させていただきます。

ありがとうございました。

■京都ウイメンズクラブ様

9月19日、今年も多額のご寄付を賜りました。ライトハウスの運営資金として活用させていただきます。

ありがとうございました。

■永和化成工業株様

9月26日、今年も多額のご寄付を賜りまし

た。ライトハウスの運営資金として活用させていただきます。

ありがとうございました。

■京都北ロータリークラブ様

9月28日、高価なロービジョン機器を多数ご寄贈賜りました。ライトハウスの相談事業、訓練授業、研修等に活用させていただきます。

ありがとうございました。

■国際ソロプチミスト京都一みやこ様

9月30日、今年も多額のご寄付を賜りました。ライトハウスの運営資金として活用させていただきます。

ありがとうございました。

ご寄付ご寄贈ありがとうございます！

次の通り、数々のご芳志をいただきました。厚くお礼申し上げます。ありがとうございました。

(50 音順・敬称略)

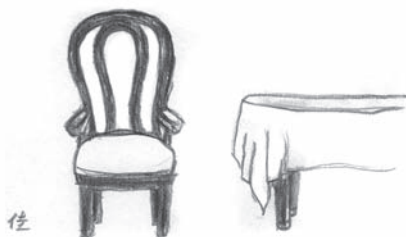
2006 年 7 月 1 日～2006 年 9 月 30 日

寄付金 99 件 3,367,867 円

物品寄付・ご奉仕 163 件

【寄付金】

池側佳澄、市木益次郎、稲川昌実、永和化成工業、園城寺住職福家俊明、大澤みさき、岡本勇夫、小倉孝子、小野健史、梶島スズ子、加藤恵美子、加藤博史、金原章司、川上リツエ、川田よしみ、川村春海、木久茂、北福祉事務所、木村道子、京都 Y M C A 国際福祉専門学校、京都ウイメンズクラブ、京都福祉専門学校、京都フレンドリーハウス、京都市立銅駝美術工芸高校 P T A、京都弁護士会、公文茂人、珈琲工房、国際ソロプチミスト京都ー北山、国際ソロプチミスト京都ーみやこ、近藤明子、佐野眼科診療所佐野貴之、サマー社交ダンスパーティー、じょいはなひろ、志和ゆかり、高木津也、高橋義公、竹下信子、経糸の会、田中武、崔春夫、堤明子、土江田曜子、中橋彌光、中村延子、日本福祉学院、花ノ坊町東部町内会、林直子、半田こずえ、伏見ブロック民生児童委員会、堀清司、三髯政美、YAMADA、山田喜美子、弓削経夫、弓削眼科診療所、朗読ボランティア陽声、わかさ生活、匿名 (31 件)



【物品寄付・ご奉仕】

青山弘、浅田八重子、あすなろ会、五十嵐雅子、生島芙美江、池田喜成、伊佐迪子、石田正美、一谷孝、伊藤治子、伊藤麻里、稲谷奈緒美、井上高行、今納本子、岩井小ミノ、岩本晃和、上田澄江、植田ヒトミ、ウサギヤ、内田務、大江薫子、大内怜子、大川勝三、大谷八重子、大西みち子、大町勝啓、岡本タミ子、岡本久栄、奥村透、奥村久子、奥山晴生、小野富夫、笠谷京子、梶寿美子、鹿島峯、梶原清一、片岡久栄、勝山君子、加藤純、加藤紀江、川坂真也、河瀬須恵、川辺由紀子、北垣せつ子、北村貞人、北村宗昭、木下幸子、木村芳子、京都産業大学新社会ボランティアサークル、京都フレンドリーハウス、京都市伏見青少年活動センター、京都市立楽只小学校、京都トヨタ自動車レクサス北大路、クサカ自動車、公益社、国立神戸視力障害センター、小中路子、サークルにし、斉藤紀美子、酒井洋子、佐川せつ子、佐古信子、佐々江温子、佐々木智栄子、佐藤恭子、里田昭美、澤田美智子、塩見章子、品川慶子、柴田慶子、清水千恵子、シミズ・ビルライフケア関西、朱常分店、白坂澄夫、鈴木さほ、鈴木昌子、関房子、惣塚多恵子、園山利子、高桑晴代、高野嘉子、高橋正夫、高橋美知子、高間、竹下八千代、武村博、田中みゆき、田辺みつ、谷川正雄、谷口敏、千代登美子、辻謙一、津田信吾、点友会、永井康代、中江利彦、中川清、中川美枝子、中島田鶴、中田英子、中西恵美子、中西恒夫、中村健一、中森清子、中森武子、西岡康博、西野美代子、西村ゆり、日本たばこ産業京都支店、野間赳夫、橋本敏夫、橋本富美子、長谷川末野、畑勇子、林清太郎、馬場康子、廣瀬千代ノ、福島敏朗、福島洋子、福見久代、藤井綾子、藤田慧子、藤村圭子、藤山和子、北條瀧枝、前田不二子、前中知栄、松繁洋、松本松扇、松本すみ子、松本哲子、まほろば、美内輝子、水口喜代子、蓑毛妙子、三村敏子、三村晴子、村上恵子、村田雅彦、村

田真知、本草野政雄、薮佳子、山岡武男、山下祐嘉里、山田勇、山田恭子、山田弘子、山田吉太郎、山中良三、山本貴巳子、山本紗英子、山本早苗、湯浅昭次、吉川繁、吉田善次、吉村隆、朗読グループあいあい、わいわいネット、渡部隆三、渡守稔、匿名（2件）

京都ライトハウス後援会より

次の通り、後援会費と運営資金寄付金を納入いただきました。会員の皆様のお名前を掲げ、厚くお礼申し上げます。ありがとうございました。

（50音順・敬称略）

2006年7月1日～2006年9月30日

後援会費 140件 280,000円

運営資金寄付金 69件 376,449円

愛きもの、青井韶一、荒木靖子、家村喜和、池田克夫、石田寿喜栄、井上恵介、井上清文、井上登志子、今宿晋作、梅原恵美子、梅山弥生、漆間美枝、襟川千春、大頭昭一、太田勝己、大村昭夫、大村悦子、奥田隆子、奥山脩二、長村美代子、小田修造、小野貞子、梶内正富、片岡泰子、加藤継夫、金子宏、亀井邦彦、河剛子、北村裕喜子、木下義次、久保和彦、久保田一江、久保元里美、熊野邦美、高良富子、古賀豊、小嶋健作、児玉五十美、後藤歯科医院後藤亨、小林志津子、小牧誠一郎、佐々木信子、佐々木博康、佐々木陽子、ささもと眼科佐々本研二、佐竹邦夫、貞森克博、佐藤譲、沢田五郎、島田喜代子、清水福子、下奥重望、下山恵美子、下羅裕子、謝名堂千賀、白井良彦、城野時一、新谷洋子、角喜代子、住谷高子、瀬川滋子、高木啓子、高木武雄、高田義雄、高橋信子、高橋廣吉、高橋光生、滝井尚三、竹上医院竹上貞之、竹田純太郎、竹中良一、田中村子、田中玲子、谷岡武雄、谷口智慧、田畑清、張文玉、佃静子、堤恵美子、出合勝二、徳田正子、戸田政男、富川桂子、中川正敏、中塚政義、中西美代子、中道

清一、成田松代、西村さと子、二本木健治・一美、橋本壮一、長谷部眞知子、浜井綾子、濱口和子、林野正子、馬場康子、日置美代、平井豊、福井美知子、藤代禎子、藤田寿大、藤田和子、藤田重昭、藤田真弓、藤田弥桐、藤田有香、藤田力也、藤本次郎、富部勝子、星川節子、細川一路、細川果苗、細川海路、本田喜久江、増田チヨ子、町田昭、松永信也、松原為和、松本哲子、的場ヒサ、萬造寺幸子、美内輝子、拙昇平、三木マスコ、溝川正、村井喜美子、村井茂子、村井昭治、村上志奈子、安田隆、安田陽子、山口剛一、山崎圭ノ亮、山下勝子、山本綾乃、山本トミエ、山本久納、山本雅子、由城純子、湯田福子、洛西高等学校、渡辺多鶴子、渡邊千順子

編集後記

興味の赴くまま、いろいろな集まりに参加しています。そこにはパワーが溢れており、私自身も熱く、そして、やさしい気持ちになれます。

視覚障害を取り巻く制度が目まぐるしく変化し、京都ライトハウスもその体制への対応を含めて様々な取り組みをしています。大変なこともあります。たおやかに、しなやかに、そして熱く、挑戦をしていけたらと思います。

<おわび>前号（106号）記事「おしらせ 濱本捷子さんの本の記事」の中で、間違いがありました。訂正させていただきます。

（誤）info@kyoto-light-house.or.jp

（正）info@kyoto-lighthouse.or.jp

（生活訓練部 鳥居寮 K）



平日の 10 時から 17 時まで営業 (ご注文の受付は 16 時 30 分までとさせていただきます)
ボランティアの方々をはじめご来館の皆様のふれあいの場、そして障害者の働く場としての
「きらきら」へ一層のご愛顧をお願い申し上げます。

ふれあいカフェ きらきらメニュー



日替わりランチ 500 円
(プラス 100 円でお飲み物が付きます)



お食事

-  スパゲッティ 350 円
(和風きのこ・ツナクリーム・カルボナーラ・ポロネーズ・ボンゴレビアンコ)
-  カレーライス (中辛・辛口) 350 円
-  ホットサンド 300 円

セットメニュー (上記お食事とのお得なメニューです)

A セット (サラダ・スープ・お飲み物) プラス 150 円

B セット (お飲み物) プラス 100 円

お飲み物 (全てホットとアイスがございます)

-  コーヒー 200 円
-  紅茶 (レモン・ミルク) 200 円
-  ココア 200 円
-  オレンジジュース 200 円
-  バニラアイス (夏季限定) 100 円
-  ドリンクチケット (5 枚綴り 950 円・11 枚綴り 2000 円)

◎喫茶きらきらでは以上のメニューをご用意し皆様のご来店を心よりお待ちしております。

